

P17 鍼刺激による免疫担当細胞への質的影響

○ 宛文涵*、宗愛麗、荒井松男**、
高田外司**、山口宣夫、多留淳文**

金沢医科大学 血清学、*財) 石川天然薬効物質研究センター、**鍼灸若草塾

〔目的〕内外における鍼灸治療効果について再認識する気運が高まりつつある。又、欧米では代替医療としての評価を検討し始めている。今回、鍼刺激が生体に及ぼす影響に関して白血球とその亜群の量的・質的な内容に対する影響を以って評価を試みたので報告する。鍼治療の効果の指標として白血球の総数、顆粒球、リンパ球そしてリンパ球亜群の質的変動を中心に追跡した。

〔方法〕対象は正常成人（20才～55才）を中心に延べ43名について、1日後、2日後、7日後14日、21日そして28日後に末梢血を採取した。測定項目として白血球総数、顆粒球、リンパ球そして、単球の量的変化をFACSscan法にて測定した。又、鍼治療は両側の肝兪・脾兪・腎兪（背部兪穴の取穴は古典の第1椎を第7頸椎棘突起とした）及び足三里にデイスポーザブル鍼30mm16号、50mm23号を使用し捻鍼法で実施した。

〔結果〕治療開始前における白血球亜群の分布率により被検者を顆粒球優位型とリンパ球優位型別に分けて変動をみると、リンパ球優位型はリンパ球が減少的な調節を又、顆粒球は増加的な変動を示した。顆粒球優位型は逆の働きを示した。経時的な変動をみると、1日後に最も大きな変動を示し、7日目には、施行前と同値を示したが、4週間後に収束した。リンパ球亜群への質的作用として体液性免疫、細胞性免疫それに炎症性サイトカイン保持細胞、IL-1 α 、IL-1 β 、IL-2、IL-4、IL-6、IFN- γ それにTNF- α の変動を追跡した。いずれのサイトカイン保持細胞も増加したが、炎症性サイトカインの上昇は僅かであった。

〔考察及び結語〕正常成人への鍼治療効果を判定するため、白血球総数、顆粒球、リンパ球そして単球の機能支配サイトカイン保持細胞を調査した結果、増加的影响が示された。